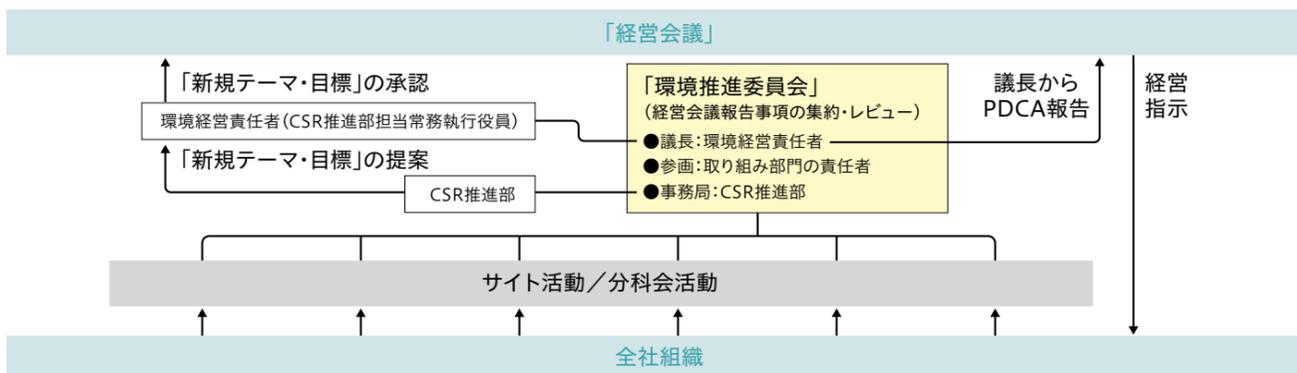


マンダムグループ中期(2014年度~2016年度)環境テーマ

「環境保全考働のビジョン」の実現に向けた「3カ年活動テーマ」に
取り組むため、事業経営との連動を強化した新たな環境推進体制を構
築しました。組織統合力の向上を目指して、実行部門責任者による「環

境推進委員会」と、部門間連携で取り組む「分科会」を設置して「環境
保全考働」を推進しています。

環境推進体制



環境保全考働 3カ年活動テーマ

「環境保全考働」のビジョン	3カ年活動テーマ														
持続可能な社会に向けた「お役立ち」の実現	<p>「環境保全考働」を推進するための重要な側面の特定と対応</p> <p>持続可能な社会に向けた「お役立ち」の実現を目指し、重要な側面(マテリアリティ)を特定して、6つの重点テーマを設定しました。テーマごとに組織横断的な「分科会」を発足して取り組んでいます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分科会</th> <th>環境テーマ・目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製品の環境配慮</td> <td>製品の環境配慮基準・目標策定による計画的な実施</td> </tr> <tr> <td>福崎サイト</td> <td>達成プロセスを明確にした省エネルギー計画の策定と実施</td> </tr> <tr> <td>海外生産拠点</td> <td>海外生産拠点の省エネルギーに対する自主目標の設定</td> </tr> <tr> <td>グリーン調達</td> <td>サステナビリティ調達基準の策定と仕入先の協力要請</td> </tr> <tr> <td>生物多様性保全</td> <td>製品ライフサイクルを通じた生物多様性方針の策定</td> </tr> <tr> <td>本社・営業サイト</td> <td>国内全拠点の産廃ゼロエミッション(再資源化)の達成</td> </tr> </tbody> </table>	分科会	環境テーマ・目標	製品の環境配慮	製品の環境配慮基準・目標策定による計画的な実施	福崎サイト	達成プロセスを明確にした省エネルギー計画の策定と実施	海外生産拠点	海外生産拠点の省エネルギーに対する自主目標の設定	グリーン調達	サステナビリティ調達基準の策定と仕入先の協力要請	生物多様性保全	製品ライフサイクルを通じた生物多様性方針の策定	本社・営業サイト	国内全拠点の産廃ゼロエミッション(再資源化)の達成
	分科会	環境テーマ・目標													
製品の環境配慮	製品の環境配慮基準・目標策定による計画的な実施														
福崎サイト	達成プロセスを明確にした省エネルギー計画の策定と実施														
海外生産拠点	海外生産拠点の省エネルギーに対する自主目標の設定														
グリーン調達	サステナビリティ調達基準の策定と仕入先の協力要請														
生物多様性保全	製品ライフサイクルを通じた生物多様性方針の策定														
本社・営業サイト	国内全拠点の産廃ゼロエミッション(再資源化)の達成														
環境に配慮した商品づくりとお客様満足の高止	<p>「商品エコポリシー」の反映強化</p> <p>「商品エコポリシー」の商品への反映強化を3カ年活動の重点テーマとし、「製品の環境配慮」分科会を設置しました。お客様に満足してご使用いただけることと両立できるマンダムらしい「製品の環境配慮」基準の策定と目標設定に取り組んでいます。また、製品のライフサイクルを通じた環境配慮にも取り組むため、生産段階での省エネルギー推進計画や、原材料の調達段階からご使用後の廃棄に至るまでの、生物多様性への影響を評価した生物多様性保全の方針策定にも取り組んでいます。</p>														
社会との円滑な環境コミュニケーションの実現	<p>環境問題の改善に向けたステークホルダーとの接点の拡大</p> <p>マンダムの「環境基本方針」と、社会から期待されている活動が一致していることを確認するため、ステークホルダーとのコミュニケーションの充実を図ります。製品の環境配慮では、お客様が必要とされない仕様を排除するため、お客様の声をお聞きし、生物多様性保全では、自社だけでは解決できない課題を環境NGOと連携して取り組むことを、環境活動のアクションプランに盛り込んでいます。</p>														

「考働レポート2015」の記述をふまえ、 株式会社マンダムおよび国内外の関係会社の活動に関して、 第三者意見を述べます。



立教大学経営学部 教授
高岡 美佳 氏

〈評価できること〉

マンダムの「考働レポート」に第三者意見を寄せるのは、今回で2回目となります。昨年度に引き続き、同社社員が日々活動する上での基本的な心構えである「考働＝考えながら働き、創意工夫する」を中心に据えて、同社が本業を通じた社会貢献活動を推進していることをわかりやすく伝えていきます。

トップメッセージにあるように、近年、国内外の社会環境は大きく変化しています。このような状況の中、同社は、「企業価値を全ステークホルダーからの評価の総和そのもの」ととらえ、常にそれを意識しつつ、社会にとって新しい価値を生み出すことにチャレンジし続けています。そのチャレンジのベースとなっているのが社員一人ひとりの「考働」であることが、本レポートを読むとよくわかります。社員の仕事風景や現場の声も多く掲載されており、顔の見えるレポートとなっている点も特徴です。

特集01(P.12-15)は、マンダムが半世紀にわたって力を注いできたアジア事業に光を当てています。2015年末に発足予定のAEC(ASEAN経済共同体)は

ASEANでの「ヒト・モノ・カネの自由化」をもたらし、同地域の経済を発展させるでしょう。同社は、2015年1月にマンダムベトナムを設立し、インドシナエリアでの取り組みをさらに強化していますが、今回の特集を読むと、エリア内の各国の地域事情に応じたきめ細やかな商品開発やマーケティング活動が行われていることがわかります。また、特集02(P.16-17)では、2014年9月に発売25周年を迎えた「ルシード」の歩みが紹介されています。

これらの特集からも明らかなように、同社は「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」という基本理念に沿って、そこで暮らす生活者の声に丁寧に耳を傾け、提案することで役立つ会社であり続けたいと考えています。このような、本業を通じたCSR意識の高さ、そして、社会や人々のニーズを汲み取ったCSRを着実に進めている点を高く評価したいと思います。

P.19以降では、昨年と同様に、生活者、社員、地域社会、取引先、株主・投資家、地球環境などの各ステークホルダーに対して、マンダムが実施しているCSR活動がまとめられています。一つひとつは地道で

はありますが、いずれも同社が社会に価値を提供し続けるために必要な活動だと感じます。特に、環境面に関しては、福崎工場を中心とした廃棄物削減への取り組み(P.29)には目を見張るものがあります。同工場での生産量が増加したため、エネルギー使用量は増えているものの、逆に廃棄物排出量は2013年と比べて減少しています。循環型社会形成に対する意識の高さを評価したいと思います。

〈要望したいこと〉

本レポートにおけるステークホルダー・ダイアログのテーマは、「マンダムのCSRとは何か?」というものでした。森授氏(株式会社オルタナ代表取締役)をファシリテーターとして迎えたダイアログで参加者の「マンダムらしいCSR」への理解も深まったのではないのでしょうか。

昨年度も書きましたが、GRIガイドラインのG4準拠を念頭に、自社の活動を洗い出し、重要性へのフォーカスを行ってはいかがでしょうか。その上で、PDCAサイクルを回すことで、マンダムのCSR活動が着実に進展することを期待します。

読者の皆様へ



取締役 常務執行役員
人事・リソース 統括
北村 達芳

マンダムグループは、アジアを軸とした独自性のあるオンリーワン・カンパニーを目指し、基本理念である「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」の具現化に向け、一人でも多くの生活者に対し、商品とサービスをお届けすることを使命としています。

そして、基本理念やDNA(企業文化)がより事業活動と密接に連動できるように、今年度よりCSR推進部を設置し、持続可能な社会に向けてのお役立ちに取り組んでいきたいと考えています。

今年度開催したステークホルダー・ダイアログでは、国際社会の動きに即した「社会的テーマ(本業を通じて社会課題の解決に貢献するテーマ)」を持つことの重要性を再認識しました。

第三者意見にて一定の評価をいただきました環境

面については、P.30で報告のとおり、今年度より組織横断的な環境課題に対応するために環境推進体制の見直しを図り、6つの重要な側面(マテリアリティ)を特定し、すでに活動を開始しています。

また、環境面以外の取り組むべきマテリアリティの特定については、第三者意見でご指摘いただきました通り、今後、多様なステークホルダーの方々の意見を傾聴しながら進め、洗い出された重要課題とテーマはKPIを定めた上でマネジメントサイクルを回してまいります。

国際社会のよき一員として、国際社会からの要請に対し、マンダムグループ全体で、グローバルな視点でCSR指針を策定し、国際社会に対する「お役立ち」の実践に取り組んでまいります。